



外国雑誌直接購入の試み

中島 志乃

I. はじめに

毎年続く外国雑誌の値上がりへの対策の一つとして、国内代理店を通さず直接購入して価格を抑えるという方法があると聞く。注文・支払いにかかる出版社との手続きを簡易にできると思われるクレジットカード払いを導入することで、外国雑誌を直接購入することができないものか。2011年に当院図書委員会と事務局が行った試みを紹介する。

II. 病院概要

鳥取県立中央病院(以下当院)は、診療科が24科2センター、病床数431床を備える県東部医療圏の基幹病院である。全職員数は820人、そのうち医師は102人、看護師は461人である。

職員専用の図書室は2階にあり、24時間365日利用できる。図書室の運営管理のために設けられているのが図書委員会で、研修医を含む医師や看護師、医療系技師、事務職員、図書担当者(司書)で構成されている。年に4回定例委員会を開催し、図書室にかかわることを決めている。

III. 外国雑誌購入状況

雑誌は全て図書室で集中管理している。外国雑誌は国内代理店を通して購入しており、2011年の購入形態例を挙げると、「冊子体のみ」22タイトル、「冊子体+EJ」19タイトル、「EJのみ」2タイトルで、合計43タイトルである。EJよりも冊子体の数が多いのは、各科の長である

医師の多くが冊子体を好んでいるからだ。契約をやめると何も残らないEJに対し、冊子体は収納スペースがある限り保存することができ、また現物を手に取ることで一冊を通覧しやすいと感じているようである。冊子体とEJを重複して購入しているタイトルが半数近くあるが、これは医局から図書室へ向かう手間を省きたいという要望があったためと聞いている。

外国雑誌の値上がりが続く中、毎年同じタイトル・形態を維持するとなると、図書費に占める外国雑誌の割合が大きくなってしまふ。当院の図書費に占める外国雑誌の割合を2008年度から見てみると、2008年度では図書費の70%近くを占めていたが、医師以外の職員の要望にも応えられるよう、2009年度には図書費が2割ほど増額された。その後は現在まで図書費の増減はなく、外国雑誌の割合は50~55%が続いている(図1)。

この50~55%を維持するために、購入タイトルを減らしたり、異なる形態で重複して購入しているタイトルをどちらか一つの形態にしたりするなど、毎年少しずつ削減している。

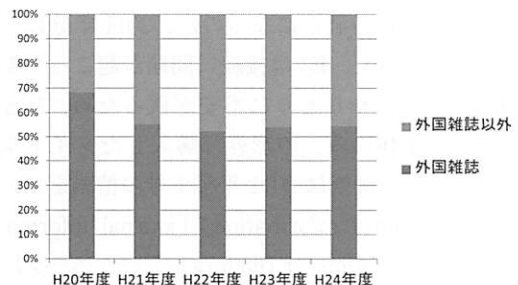


図1 外国雑誌購入状況
図書費に占める外国雑誌の割合

2011年は、ある出版社の「冊子体+EJ」価格が高騰したため、6診療科にわたるこの出版社の7タイトルにおいてどちらか一つの形態にした。この大削減が、代理店を通さず直接購入することで価格を抑えようという試みを始めた理由の一つである。

IV. 直接購入の試み

1. 試みの始まり

2011年の大削減の外国雑誌契約が完了し新年度を迎えた頃、図書委員より、「病院でクレジットカードを作り、外国雑誌を直接購入してはどうか」という提案があった。委員に縁のある国立大学図書館で図書の支払いにクレジットカードを使用できるようになったため、この導入例を参考に当院でもクレジットカードを持てるのではないかとするのである。

ある出版社ではオンラインストアで機関購読のクレジットカード払いができるという。クレジットカードがあれば、インターネット上で直接注文でき、出版社への支払いもカード会社を通すので煩わしい処理を省くことができるそうだ。直接購入することができれば、代理店に支払っていた手数料を節約できる。

代理店を省くことによって増えるであろう業務は図書担当者が担うこととなるが、例えば未着クレームの英訳などは図書委員らの協力を得られるということもあり、まずは数誌で直接購入を試してみることに図書委員会で決定した。

2. 価格調査

直接購入は安いと言われてはいるが¹⁾実際はどのくらいの価格になるのか、2011年分について調べてみた。EJは接続に問題が起こった際の出版社とのやりとりで不安が残るため、ひとまず「冊子体のみ」の形態で購入したタイトルに限定した。価格は2011年第1号の情報を元に「general information」「journal information」「information for readers」というページに、施設(institute)向けの価格が主にドルで記載されている。この価格を当時のレートで円に換

算し直接購入価格とした。

算出した直接購入価格と2011年に代理店を通して購入した価格とを比べたところ、直接購入の場合、代理店価格合計の72%となることがわかった。3割近く安くなるのであれば検討してみる価値はある。

3. 導入例調査

図書委員会から会計を担当する病院事務局へ、クレジットカード導入の要望を提出した。公的機関がクレジットカードを持てるのか、事務局より県庁部署へ照会したが、県の会計規則に反するためできないとの返答があった。ほかの都道府県の公的機関で導入している例があれば参考にできるため、図書担当者が前例を探ることとなった。

図書館資料の購入にクレジットカードを使用しているか、近隣の国立大学図書館3館、近隣および都市部の大規模公立図書館4館へ問い合わせた。当院図書室が入会している近畿病院図書室協議会のホームページ掲示板にも情報提供の依頼を載せた。この導入例調査は主に図書担当者の縁故を頼った範囲の狭いものとなってしまった。

また、公的機関のクレジットカード使用例があるか、オンラインストアで図書館のクレジットカード払いに対応している大手書店²⁾、社団法人日本クレジット協会、大手クレジットカード会社1社に問い合わせた。

結果、図書購入に限ったクレジットカードの使用例はあったが、外国雑誌の例はなかった。図書購入の例は、絶版図書の購入に限り古書を扱うオンラインストアでクレジットカード払いをしているというものだった。

また、クレジットカードを導入している公的機関はみつからなかった。国立大学や公立大学の例はあったが「大学法人」名義ということだった。

4. 考察

クレジットカードを持つ公的機関がみつからない理由は、会計規則にあるようだ。当院事務局担当者によると、クレジットカード払いには

① 公金支出の前提である請求書がないこと ② 債権を有す事業者が、公金口座から勝手にお金を出してしまうこと ③ 不正などのチェックが難しいこと、などの問題点があり、導入は難しいとされているという。国立大学や公立大学は法人に移行したことで民間並みの融通のきく会計処理が可能となり、前述の図書委員に縁のある国立大学図書館でもクレジットカードの導入ができたようである。

当院では県の会計規則に沿った手続きができないという理由からクレジットカードは導入できず、外国雑誌の直接購入に踏み切ることはできなかった。

V. 直接購入の代償

代理店は顧客から手数料を徴収し、顧客の代わりに出版社とのやりとりを受け持つ。そのやりとりには、予約業務（更新・新規）、送金業務、クレーム処理業務、集荷・配送業務、情報提供業務があるという^{3,4)}。当院に対しても、雑誌を安定入手するためのフォローをしてくれるほか、契約や支払いに必要な書類をそろえたり、代金の請求を会計年度に分け一部を立て替えたりするなど、外国商習慣を日本の国内事情や当院の煩雑な会計規則に合わせて対応してくれている。

過去の文献から直接購入例をみると、予約・送金にかかる業務が煩わしい様子だった^{1,5)}。クレジットカード払いで出版社から直接購入することができれば、この業務を簡易にできるのではないだろうか。ただし、出版社側に書類の提出や会計年度に分けた代金の請求といった会計規則に沿った手続きを求めることは困難であろう。日本語での応対は望めず、雑誌に未着や汚損があった場合も出版社側の国の言葉でやりとりすることになる。顧客から直接入るクレームに迅速な対応をしてもらえるのかなど、外国雑誌の費用を3割近く節約できたとしても、直接購入によって増加するであろうノウハウのない作業をこなしていくことができるのか、不安は大きい。

VI. おわりに

当院図書委員会では、限られた予算内で広く職員の要望に応えられるよう、外国雑誌の形態削減などを毎年少しずつ行って費用を抑えてきた。外国雑誌の値上がりが続く中予算の増額が見込めなければ、いずれはタイトル自体の削減に着手しなければならない。利用の少ない雑誌を取りやめるのは仕方ないことかもしれないが、該当科から中止や変更の要望がない限りタイトル削減はできるだけ避けたい。購読タイトルの決定には利用頻度だけではない何か別の理由もあった気がするからだ。

今ある購読タイトルを維持していくために、クレジットカード払いを導入し外国雑誌を直接購入することで、代理店に支払っていた手数料を節約しようと試みた。その結果、会計規則に反するという導入は実現しなかった。公的機関の会計処理は会計規則によって細かく取り決められており、たとえクレジットカードが導入できたとしても、会計規則のもとでの直接購入は難しいことを知った。

また、前述したオンライン上でクレジットカード払いができた出版社は、2012年3月をもって日本の機関に対するこの販売サービスを取りやめたようだ。別の大手出版社は、2013年現在、日本支店を通してクレジットカード決済ができるという⁶⁾。出版社側の販売サービスが固定されておらず、クレジットカードを導入できてもこの先ずっとクレジットカードでの支払い方法が保証されているわけではないということがわかった。

参考文献

- 1) 小川邦弘、津村京子、関口良子他：帝京大学医学図書館の外国雑誌購入について。医学図書館。1985; 32(2): 147-58.
- 2) 紀伊國屋書店。[引用 2013-03-17]。
<https://pro.kinokuniya.co.jp>
- 3) 富岡達治：外国雑誌「初心者」のための基礎知識。情報の科学と技術。2009; 59(6): 256-61.
- 4) 田口宣行：外国雑誌の流通と価格。病院図書館。

2003; 23(3): 122-5.

5) 岩田牧子: Q&A 外国雑誌を直接購入する方法について. 医学図書館. 1982; 29(1): 104-5.

6) Elsevier Japan. [引用 2013-03-17].

<http://japan.elsevier.com/products/journals/elsevier.html>